



ふつうに暮らしていたら、仏教に関わるときといえば、お葬式や法事くらいなものである。葬式仏教と言われる所以ですね。

伊藤淳史主演で上映中の「ボクは坊さん。」ちょこっと面白そう？なので読んでみた。

四国八十八か所霊場第57番札所の栄福寺、祖父の急死により30歳で住職になった密成さんのエッセイである。お寺や仏様のことを面白おかしく軽いノリで書いてあるのかと思えば、これがけっこうまじめに経典引用など、内容が濃く（ということはチョイ難しい）もっと仏教を勉強しないとついていかれへん、みたいなのところもあります。お釈迦様の教えをあらわした経典をいくつか原文と平易なことばでの解説が載っているが、なかなかすなり頭に入らない。

高野山大学での学生生活の話は面白く、食べ盛りの青年たちは「ミロ」に少し水を混ぜて、団子にしてチョコレートを作ったり、あるときの献立は「米」「冷や奴」「そうめん」というただ真っ白いだけの日もあったり…テニスクラブの練習に行こうとしたらコート周辺にクマ出没で禁止。まるで、♪ある日～森の中～クマさんに～出会ったあ～♪みたいな。

休みの日に梅田まで出かけると、帰りの夜、高野山行きの南海電車に自分1人しか乗ってなくて寂しかったとか。お坊さん専用通販で特別バリカンを買って失敗したことなど。

私の高校の同級生は卒業後、身延山で坊さんになり、そんな辛気臭い人とは付き合ってもらえんとばかり友だち解消。もっともその後はただの一般人しているみたいなので、そういうのも若気の至りだったのかもしれない。私が社会人になったときは、住職兼務の同僚が居て、坊さんソフトボール大会とか連れていってくれたり、けっこうおもしろく遊んだこともあった。そして、お坊さんって茶の湯と関係は深いのか、2人とも茶道を習ってい

たけど、やっぱり、辛気臭いのん嫌いの私は興味もなし。それが今頃になって、コツコツと茶の湯を習っているのも不思議といえば不思議で、歳とれば、興味も好みも変わってくるのである。まだまだ習えることは多い。

私は京都の仏教系女子大だったので、入学式も卒業式も数珠を持って、親鸞聖人の恩徳讃（おんどくさん）を唱えた。まあ、そのときはわけもわからず、歌っていただけで、もっとも今もわかってないけれど。

最近はお葬式も家族葬が増え、お墓を継ぐ者が居ないのでお墓無しのところも少なくないが、密成さんによると、「お墓は思い出の再生装置」らしい。私の場合は30年も前に亡くなった母と、数年前に相次いで亡くなった夫の両親のお墓がある。母はうんと昔のことになってしまったし、義父母は高齢で長生きしたので、もう未練もなかりと、お墓の前で思い出を再生することもない。が、毎年命日にお参りに行く亡き親友のお墓の前では、しばし昔のことを振り返ったりする。

印象に残った言葉は『胸中万感書』あとからネットで調べたら、「万巻の書を読み万里の路を行けば自ずと胸中に自然が映し出される」というような意味らしい。人の心の中は宇宙の如く広々とどこまでも可能性があるような気がして、些細なことなどどうでもいいわ、と思えてくる。

自分に向けて「ハッピーか？」確認作業、問いかけの時間が大切なんだって。私も何か腹立てたとき、思わず悪態付いて、ムカつく！と同時に「あ、自分、今、怒ってるやろ」と別の目で見ていることがよくある。すると、腹立たしい感情が冷めてしまい、どうでもよくなってしまふ。へまもアホなことやっても、しゃあないやん、せーんぶOKだ。

難しい仏教はパスしても、せめて、般若心経くらいはスラスラと暗記したいなあ。

♪まかはんにゃはらみたしんぎょう かんじぎいぼさつ ぎょうじんはんにゃはらみったじ しょうけんごうんかいこう…♪

「ボクは坊さん。」 白川密成 ミシマ社